

AAR Annual Report 2023

| 2023年度 | 年次報告書



AAR Japan

認定NPO法人 難民を助ける会

わたしたちの 45年の歩み

since
45th
1979
想いを、支援に。

世界の出来事

1975年のベトナム戦争終結に相前後し、インドシナ3国（ベトナム・ラオス・カンボジア）では社会主義化が進み、迫害や弾圧を恐れて多くの人々が国外へ逃れました。

東アフリカで大干ばつ、飢餓拡大

ベルリンの壁崩壊・東西冷戦終結

湾岸戦争（～1991年）

旧ユーゴで内戦が勃発（～2001年）
カンボジア和平に関するパリ協定締結

欧州連合発足

ルワンダで大量虐殺

阪神・淡路大震災



アメリカ同時多発テロ事件

スマトラ島沖地震によるインド洋大津波

ミャンマーを大型サイクロン「ナルギス」が直撃



ミャンマーからバングラデシュにロヒンギャ難民が大量流入

新型コロナウイルス感染症のパンデミック

ミャンマーで軍事クーデター
アフガニスタンでタリバンが政権掌握

ロシアがウクライナに武力侵攻（継続中）

トルコ地震

能登半島地震

AARの歴史

1979 「インドシナ難民を助ける会」として発足

1980 タイとカンボジア国境地帯の難民キャンプにボランティアを派遣

1981 アフリカのケニアにボランティアを派遣

1982 在日難民への支援を開始

1984 「難民を助ける会」に改称／「アフリカの子どもに水とミルクを」キャンペーンを実施

1985 サイクロンによる洪水（バングラデシュ）緊急支援

1991 旧ユーゴスラビアへの支援（～2003年）

1992 さぼうと21を設立（在日難民・外国人への支援を引継ぎ）

1993 カンボジアに障がい者支援センターを開設し、職業訓練を開始
（2006年現地に現地NGOとして独立、2011年閉鎖）

1994 カンボジアに車いす工房開設（2006年に現地NGOとして独立）

1995 阪神・淡路大震災の被災者支援を開始（～1996年）

1996 対人地雷廃絶キャンペーン絵本『地雷ではなく花をください』を出版
カンボジアで地雷除去支援（～1999年）

1997 「対人地雷禁止条約」署名式に参加

1999 アフガニスタンで地雷除去を開始

2000 特定非営利活動法人（NPO法人）格を取得

2001 パキスタンでアフガニスタン難民支援を開始

2003 国税庁より、認定 NPO 法人の認定を受ける

2004 スリランカでインド洋大津波緊急支援を開始（～2006年）

2008 ミャンマーでサイクロン緊急支援を開始（～2010年）
沖縄平和賞受賞

2011 東日本大震災の被災者支援を開始

2012 トルコでシリア難民支援を開始

2014 シリアで国内避難民支援を開始

2016 ウガンダで南スーダン難民支援を開始

2017 ロヒンギャ難民支援を開始

2021 ミャンマー、アフガニスタンで緊急支援を開始

2022 ウクライナ緊急支援を開始

2023 トルコ地震緊急支援を開始

2024 能登半島地震緊急支援を開始



心からの感謝を込めて

1970年代、「困っている人を助けたい」という想いのもと、インドシナ難民への支援として始まったAAR Japan[難民を助ける会]は、2024年11月に創立45年を迎えます。

政治や宗教など何の後ろ盾もないAARが、こうして活動を続けてこられたのは、活動当初から、そしてさまざまな困難が起きるたびに、想いをひとつに支えてくださった皆さまのあたたかいご支援のおかげです。心より御礼申し上げます。世界の難民・避難民の数は最多を更新し続け、世界情勢は混迷を極めています。AARは今後も困難な状況に置かれた人々に寄り添い、その声に耳を傾け、必要な支援を届けるために全力を尽くしてまいります。

一層の成果を目指してまいりますので、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



理事長 堀江 良彰

Index

- 02 45年の歩み
- 03 ごあいさつ／AARとは
- 04 数字で見る2023年度
- 06 2023年度の活動について
- 07 緊急支援
- 10 難民支援
- 14 災害支援
- 16 障がい者支援
- 19 地雷・不発弾対策
- 20 感染症対策／水・衛生
- 21 国内活動
- 23 実施体制
- 24 ご支援企業・団体・個人のご紹介
- 26 会計報告
- 28 ご支援の方法

より詳しい活動報告は、ホームページの「2024年度総会記録」でご覧いただけます。



AAR Japan

認定NPO法人 難民を助ける会

紛争や災害、障がいなどによって
困難に直面する人々に支援を届ける
日本生まれの国際NGO

AAR Japan[難民を助ける会]は、難民支援を「原点」とする日本生まれの国際NGOです。1979年に、憲政の父・尾崎行雄の三女、相馬雪香がインドシナ難民支援を目的に創立。「困ったときはお互いさま」という日本の善意の伝統に基づいて、難民となった人々への支援を開始しました。以来、多くの個人・企業・団体の皆さまに支えられ、支援対象を拡大しながら、これまで65を越える国と地域で活動してきました。

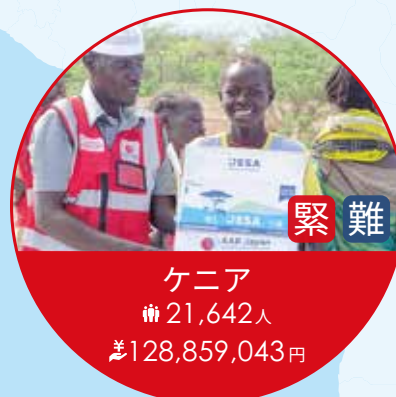
現在は、人道的危機にさらされた人々に必要なものを迅速に届け命をつなぐ「緊急支援」、さらに未来を切り拓くための長期的な支援を、「難民支援」「地雷・不発弾対策」「障がい者支援」「災害支援」「感染症対策／水・衛生」「提言／国際理解教育」の6つの分野に注力して18の国と地域で行っています。(2024年8月現在)

お寄せいただいたご寄付を確かな支援に変えて、直接支援の現場に届けます。

数字で見る2023年度

 直接受益者数(支援を直接届けた人数)

 活動規模(事業決算)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

AARは、SDGs(持続可能な開発目標)の17のゴールのうち、下記11のゴールに直接寄与する活動を行っています。



※2023年4月に発生した武力衝突により、年度内の活動は緊急支援の調査のみとなったため

AARに寄せられたご支援

寄付・会費 6億637万1,973 円
 支援者数 1万3,485 人
 寄付件数 4万5,429 件
 マンスリーサポーター 2,342 人

AARの活動により世界に届いた支援

活動国 17 カ国
 事業数 41
 直接受益者数 56万3,575人
 支援事業費 14億8,384万3,365円

- 緊** 緊急支援
- 難** 難民支援
- 災** 災害支援
- 障** 障がい者支援
- 地** 地雷・不発弾対策
- 感** 感染症対策



2023年度 活動報告

2023年度は、4月にスーダンで軍事衝突が勃発、地震や洪水などの自然災害も世界各地で相次ぎ、多数の緊急支援を実施しました。2024年1月1日に発生した能登半島地震においても国内外の多くの皆さまからご寄付をお寄せいただき、迅速に支援を開始することができました。

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）によれば、世界の難民・国内避難民の数は2023年末時点で1億1,730万人に達し、その数は12年連続で増加しています。

長引く政情不安や紛争により、AARが活動するアフガニスタンやウクライナ、スーダンにおいても、支援を必要とする人々の数は増加しています。

相次ぐ自然災害に加え、深刻化する難民問題で苦しむ方々を支える活動を実施できたのは、ひとえに皆さまからのご支援のお陰であり、心より感謝申し上げます。



事務局長
古川 千晶



2023年4月、スーダン政府軍と準軍事組織（RSF）の武力衝突が勃発。首都ハルツームに滞在していたAAR駐在員の相波優太は日本政府などの協力を得て日本に退避した。ハルツーム国際空港付近から立ち上る黒煙（4月20日、相波が避難先の他団体事務所から撮影）

2023年度に実施した主な緊急支援

2023年 4月

5月

6月

7月

8月

ケニア緊急食料配付

台風2号の被害調査・支援（静岡県）

ウガンダ緊急食料配付

令和5年7月大雨緊急支援
（福岡県・秋田県）

アフガニスタン洪水被災者支援

9月

10月

11月

12月

2024年 1月

ラオス豪雨被災者支援

モロッコ地震緊急支援

スーダン紛争緊急支援

アフガニスタン地震緊急支援

能登半島地震緊急支援





受益者数
160,819人



事業規模(事業決算額)
180,880,747円

紛争や自然災害が起きた際、迅速に出動し、難民・避難民や被災者の中でも特に脆弱な立場にある人々を支援しています。

能登半島地震

2024年1月1日に能登半島を襲った大地震。AAR緊急支援チームは1月2日に被災地に入り支援を開始しました。

珠洲市、輪島市、能登町において避難生活を送る被災者に対して温かい食事やお弁当を提供。また、能登半島全域を対象に、被災した福祉施設や、技能実習生などの被災外国人に対して、食料・物資支援を実施しました。また、福祉施設運営の再開に必要な備品や施設修繕のニーズを調査し、順次必要な支援を提供しました。輪島市では中心部から離れ支援が不足する地区に対して生活用水のための井戸再活用、マッサージ支援を実施。お風呂カーによる入浴支援や志賀町の仮設に入居する方々への家電配付も実施しました。



のべ7,005人に緊急支援物資を届けました



炊き出し:のべ120,539人に作りたての食事やお弁当を提供



ベトナム、インドネシア、ラオス出身の外国人被災者に、それぞれの食文化に応じた食材や支援情報も提供

石川県七尾市の障がい福祉施設「ゆうの丘」 理事長 本田 雄志さん

「AARの皆さんが食料や飲料水、掃除道具などを届けてくれたのは、震災発生2日後の1月3日。その時点では行政からの支援はまだ何もありませんでした。翌4日から、職員総出で利用者の安否確認と支援物資の配付を始めました。断水が続き、水や食料、簡易トイレは本当に助かりました」



まだ、どこからの支援も
ありませんでした



久留米市の障がい福祉事業所に
清掃用具を提供(2023年7月)

令和5年7月大雨

(福岡県・秋田県)

2023年7月に各地を襲った大雨。福岡県で大規模な河川の氾濫、秋田県でも広範囲におよぶ浸水被害が発生しました。AARは福岡県久留米市で、在宅避難者への炊き出しや福祉施設の運営再開を支援。秋田県では緊急支援物資の配付や炊き出しに加え、高齢者や障がい者世帯に対し生活再建に必要な家電の配付や家屋の修繕を行い、5,774人を支援しました。

台風2号

2023年6月の台風2号で被害を受けた静岡県では、調査および沼津市で災害ボランティアセンターを運営する沼津市社会福祉協議会に対し、サーキュレーター5台を貸与しました。

緊急食料支援

ケニア、ウガンダでは、物価の高騰や干ばつによって、多くの人々が食料不足に直面しています。AARは、高齢者や障がい者を含む家庭や女性が世帯主、また親のいない子どもだけの世帯に対して、緊急食料配付を実施しました。ケニアでは2,275人(374世帯)、ウガンダでは3,072人(509世帯)に支援を届けました。



米、豆、トウモロコシ粉、植物油、砂糖、ミルクなどの食料パッケージを受け取る女性たち(ケニア、トゥルカナ西準郡)



特に食料の入手が難しい高齢女性を優先的に支援(ウガンダ、カモジャラ地域コティド県)

アフガニスタン洪水

2023年7月22日から降り続いた大雨により、国内の約2万1,500人が家屋や農地などに被害を受けました。AARはより脆弱な立場にある被災者1,104人(138世帯)に、米、小麦、砂糖、茶などの食料品や石けんなどの日用品を配付するとともに、水害により流された地雷などの爆発物に関するリスク回避教育を実施しました。

家も畑も失い、
仕事をもらって家族
を養っています

サイードさん(34歳)



「小麦や野菜を栽培して生活していましたが洪水で家も畑も失いました。今は農作業の仕事ももらって妻と5人の子ども、両親を養っています。食料支援は本当に助かっています」

支援物資を受け取るサイードさん(左)



サワンナケート県の県都カイソーン・ボムウィハーン郡に
物資を届けるAARの山本慶史(右から2人目)



ラオス豪雨水害

2023年8月に続いた大雨により、ラオス国内16県で洪水や土砂崩れが発生し、同国中部を中心に家屋倒壊、浸水、生活インフラへの被害が発生しました。AARは特に壊滅的な被害を受けたサワンナケート県、カムアン県で、米や即席麺、飲料水などを154世帯に配付しました。



調査にあたる
AARの長野峻典(中央)

ホーシンさん(55歳)

「小さな店を経営していましたが、地震で自宅も店舗も崩れてしまいました。何もかも失い、今は子どもたちを守るのに精一杯です。この先のことなど考えられません。こんなところにまで支援を届けてくれて本当にありがとう」



こんなところにまで
支援を届けてくれて
ありがとう

アフガニスタン地震

私たちの話を、一人ひとり
丁寧聞いてくれました



ラヘラさん(34歳)

「障がいがあるため働くことができません。AARのスタッフは、私たち被災者の話を丁寧に聞いてくれました。避難生活に必要な物資を届けてくれて感謝しています」

2023年10月7日から15日にヘラート県で発生した地震で被災した、障がい者や高齢者、女性が世帯主の世帯に対し食料や越冬支援物資を約910人(130世帯)に配付しました。



被災状況を調査するカブール事務所職員(右)



国内避難民が暮らすテント

スーダン紛争

2023年4月、政府軍と準軍事組織(RSF)との武力衝突により、多くの難民・国内避難民が発生。スーダンに残るAAR現地職員が、首都ハルツームから多くの避難民が流入した東部のジャジーラ州においてニーズ調査を開始しましたが、武力衝突地域の拡大により支援を断念。2023年12月中旬より、さらに東部に位置するカッサラ州でニーズ調査を実施しました。(支援物資の配付は2024年度に実施しています)



紛争や迫害により、住んでいた土地を離れて避難生活を送る難民や国内避難民、祖国へ戻った帰還民、避難先での定住を決めた元難民への支援を11カ国※で実施しました。食料や衛生用品の配付、教育支援、安心して生活するための情報提供や心のケアなど、国や地域、状況に応じた支援を行っています。

新しいノートをもらい笑顔を見せるウガンダの
チャングワリ難民居住地の子どもたち

Refugee Assistance

難民支援



受益者数
70,381人



事業規模（事業決算）
606,403,861円

※スーダン国内避難民支援（p9）、アフガニスタンでの
帰還民への爆発物リスク回避教育（p20）を含む

Pick up

- ケニア、ウガンダ、ザンビアの難民居住地でのべ31,185人に教育支援を実施
- ウクライナ、モルドバで19,365人の難民・避難民を支援
- シリア国内の22の避難民キャンプで16,621人に食料支援を実施

ウガンダ〈教育支援〉

チャングウェソさん (19歳・学生)

「祖国のコンゴ民主共和国で家族と暮らし、学校に通っていました。しかし紛争が起き、住んでいた地域でたくさんの方が殺され、私たち家族は財産をすべて失い、ウガンダに避難しました。援助がないと暮らしていけません。十分ではなく、生活必需品や学用品を買う余裕がありません。AARの支援を受けて、勉強を続けることができます。これまで以上に勉強に励みます」



余裕のない生活でも
勉強を続けられます

ザンビア〈教育支援〉



AARが実施する識字教室

オデットさん (27歳・AAR主催の英語コース受講)

「治安の悪化のため、祖国コンゴ民主共和国を去ったとき、私はPCエンジニアリングを学ぶ大学2年生でした。でも、ここでは勉強を続けることも、学んだことを活かせる仕事に就くこともできません。半年間、AARの識字教育で英語を学び、上達しました。将来は援助団体で難民の子どもたちを助ける仕事がしたいので英語は必要です。教育の機会を与えてくれたAARに感謝しています」



教育の機会に
感謝しています

難民への教育は、個人だけでなく、 祖国や受け入れ国の発展にも寄与しています

中川 梨緒奈(ケニア駐在員)

難民キャンプや難民居住区に暮らす人々の半数以上が子どもと言われており、母国での紛争や貧困により教育が十分に受けられないために、ケニアにやってきた家族もたくさんいます。彼らの教育や子どもたちの将来に対する思いは非常に強いのですが、教育施設の不足や生活苦により学校に通えない子どもが多くいるのが実情です。そんな状況でも、AARの支援を受け無事に学校を卒業し、地元のNGOや教員として働く若者も出てきています。教育支援により、難民個人の将来への希望や可能性が広がるだけでなく、教育を受けた難民出身の若者が受け入れ国や自国の発展に大きく貢献することに繋がっています。



Uganda ウガンダ

初等・中等教育に通う 子どもたちを守る

保護・教育支援：西部のチャングワリ難民居住地で、教員や地域住民**1,049人**を対象に研修を行い、学校保護委員会を設立。保護委員が中心となり、児童**223人**の退学リスクを特定し、家庭訪問などの個別支援を実施した。また、就学の継続を促すため、児童・生徒**11,297人**に学用品を配付した。



Kenya ケニア

難民居住地の教育環境を 整備し、学びを支える

教育支援：カロバイエ地域の初等学校**2校**でトイレと学生寮を建設し、寝具を提供。また、**8校**で計**40人**の教員にメンターシップ研修やライフスキル教育の研修を行った。**40人**の地域住民から構成された個別支援チームに子どもの保護やケースワークの研修を行い、退学リスクのある児童に対して教員と個別支援チームによるカウンセリングや個別相談を実施。のべ**19,367人**を支援。



Zambia ザンビア

難民・元難民の教育機会の 拡充を目指す

基礎教育普及支援：メヘバ難民居住地で中等教育施設を整備。教室**1棟**、教員宿舍**2棟**、トイレ棟**3棟**の新設、井戸**1基**の掘削を進めた。また、教員研修ワーキンググループを設立し、初等・中等教育の教員**85人**の能力向上を図る研修を実施。成人識字教育には、難民・元難民**127人**が参加し、うち**90人**が修了した。



| 活動報告 |

Turkey トルコ

難民が適切な保護を受けられる
環境を整える

現地団体の育成を通じたシリア難民の保護活動：シリア難民を支援しているトルコの団体に対し、基礎研修と事業資金を提供。助成金の獲得や事業の実施・報告能力を強化し、**7団体と128人**の難民およびホストコミュニティ住民を支援した。



Syria シリア

食糧配付と生活再建の
ための農業支援

食糧配付・農業支援：**22**の国内避難民キャンプでパンを製造し、**16,621人(3,489世帯)**に配付した。また、脆弱性が高い小規模農家を対象に、種子や肥料、農業を配付するとともに、害虫対策や効率的な施肥の方法など、生産性向上に関する研修を実施し、**400人**の農業従事者を支援した。



Bangladesh バングラデシュ

ロヒンギャ難民の
保護活動

ロヒンギャ難民が暮らすキャンプで、女性と子ども、若者のための多目的センターを現地協力団体を通じて運営。人身売買や武装勢力への勧誘といった身近に迫る問題に対処するためのワークショップ、不安感やうつ症状を抱えている子どもや若者へのカウンセリングなどを実施し、**2,624人**を支援した。



現地のNGOを通じて難民を支援しています

モアタズ・ファラー（トルコ事務所）

AARは10年以上にわたり、トルコでシリア難民の支援を行ってきましたが、現在はトルコ人やシリア難民による現地の小規模NGO（CBO*）の能力強化に取り組んでいます。地域に密着した団体が力をつけて活動を継続できるようになれば、国際社会の支援が縮小した後も、難民への支援を続けることができるからです。私は臨床心理士の資格を持つ職員とともに、CBOの活動を全面的に支援しています。また、AARの経理や人事などの専門スタッフがCBOスタッフに研修を行い、その後も電話などでフォローしながら、マネジメント力やプログラム遂行力の強化を図っています。AARの支援が終了した後、CBOが自力で素晴らしい事業計画を策定していることを知ったときは、本当に嬉しく感じます。

※Community Based Organization



以前より安定した
収入を得られています



シリア〈農業支援〉

アブデルさん
（48歳・栽培研修に参加）

「世界的なインフレの影響を受けてシリアでも農業に必要な資材の価格が高騰しているので、支援してもらえて本当に助かります。収穫を増やすための専門的な研修やコンサルティングも受けることができ、おかげで今までで一番良質のキュウリを収穫することができました。市場に出荷して、以前より安定した収入を得られています」

バングラデシュ

〈ロヒンギャ難民キャンプにおける保護活動〉

アウンティンさん
（仮名・ワークショップに参加）

「以前は、有償ボランティアで収入を得る機会がありましたが、それがなくなり、生活が苦しくイライラしていました。AARが多目的センターで開催したメンタルヘルスに関するワークショップに参加し、自分の心の状態を見つめ直すことができ、精神的に落ち着いてきました」

自分の心の状態を
見直すことが
できました



難民の若者対象のワークショップ

ウクライナ〈国内避難民支援、障がい者支援〉



AARと連携する現地団体のメンバーから
支援物資を受け取るユリヤさん

ウクライナのことを
忘れずに支援してくれる
日本にありがとうと伝えたい

ユリヤさん(50歳・国内避難民)

「ヘルソン州の故郷の村は、ロシア軍の侵攻直後に占拠されました。故郷を離れたくはありませんでしたが、食料の確保が難しくなり、身の危険を感じたため国外に逃れました。今は、ウクライナに戻り隣の州で避難生活をしています。いつか愛する故郷で元の暮らしに戻るよう、今はここで精いっぱい働きます。ウクライナのことを忘れずにこうして支援してくれる日本の方々にありがとうと伝えたいです」

モルドバ〈ウクライナ難民支援および地域住民支援〉

子どもが遊ぶ姿を
見ると安心します



AARがファレストイ県で運営するチャイルド・フレンドリー・スペース(CFS)を4歳の娘と利用するイルーニャさん

イルーニャさん(仮名・CFS利用者)

「私たちの町で激しい戦闘が起きて、娘を連れてモルドバに避難して来た時はとても不安でした。CFSで地元の子どもたちと楽しそうに遊んでいる娘の姿を見ると、私も安心します。今日はモルドバの小学生から工作を教わりました。娘はモルドバの公用語であるルーマニア語がどんどん上達しています」

国内避難民、障がい
関連団体をサポート

障がい者支援:ウクライナ国内で活動する障がい関連団体と協働し、紛争の影響を受けている障がい者とその家族など、特に支援が必要な人々を対象に、物資配付、現金給付、心理社会的支援などを実施し、**5,223人**を支援した

避難民支援:南部のミコライウ州とヘルソン州で現地団体と協働し、障がい者、慢性疾患患者、高齢者、自宅が被災した人々を対象に、現金給付と食料配付を実施。また、西部のティルノポリ州の国内避難民に対し、ポーランドからの物資支援や日帰り旅行などのレクリエーション活動、精神科医による心のケアを提供し、計**835人**を支援した。



Moldova モルドバ

ウクライナ難民および
受け入れ地域での保護活動

現地協力団体と協働し、難民および地域住民が利用するための施設を運営。首都キシナウでコミュニティセンターを**2カ所**、北部のファレストイ県でチャイルド・フレンドリー・スペース(CFS)**1カ所**を運営した。各施設で、医療、心理社会的支援、ベーシックニーズ支援を通じて保護環境を改善し、**13,307人**を支援した。



Japan 日本

難民・避難民の日本での
生活を後押し

姉妹団体「社会福祉法人さばうと21」と協力し、武力紛争・政情不安などの理由で来日した難民・避難民のための「生活相談プログラム」を開始。難民申請や住居、教育など多岐にわたる相談に対応し、関係機関と連携して支援を提供。また、2021年以降に来日したアフガニスタン女性を支援するため、手芸教室を開催。アフガニスタン難民女性が講師となり、地域住民との繋がりを作る場を提供した。合わせて**58人**を支援した。



トルコ地震から9カ月。いまだにテント暮らしを
続ける男性に話を聞くAARの長野峻典(左)

Disaster Relief

災害支援



受益者数

213,297人



事業規模(事業決算)

257,860,470円

@Yoshifumi KAWABATA

災害が発生した際、物資配付や炊き出しといった緊急支援の後、被災された方々の生活を取り戻すための復興支援を行っています。2023年度は、パキスタン洪水(2022年)※、トルコ地震(2023年)、令和4年8月豪雨(2022年)、東日本大震災(2011年)の被災地で、復興支援を実施しました。

※パキスタン洪水の被災地支援は、20ページで報告しています。

活動報告

Turkey トルコ

被災した人々の 生活環境を改善

2023年2月にトルコ南東部で大地震が発生。甚大な被害を受けた村落部では支援が不足しており、AARは発災直後から食料と衛生用品を配付。また、質の悪いコンテナや地面に直接設置されたテントで生活している被災者に、雨漏りを防ぐためのナイロン製シートや床を設置するための「すのこ」を提供し、**205,814人**を支援した。



トルコ地震

私たちが本当に
必要としているものを
支援してもらいました



洗剤や石けん、シャンプーなどの支援物資を受け
取ったレイラさん(左)とAARのガウシー モジバ

レイラさん(55歳)

「地震で私の村は壊滅し、自宅も崩れ家財道具もがれきの下敷きになりました。楽しい思い出もすべて失われ、本当に辛かったです。地震前の家に帰りたい気持ちで今も過ごしています。避難生活で不足していたものを日本の皆さんからたくさんいただきました。衣類を届けてくれた時はサイズまで確認してくれ、本当に必要なものを支援してもらいました。心から感謝しています」

東日本大震災

2011年3月11日の東日本大震災被災地での支援を続けています。2023年度は、復興公営住宅などに移った高齢者の孤立を防ぐための交流活動、地域防災の普及、福島県内の親子を対象とした交流イベントなどを行いました。

交流イベント開催

「1年半ぶりだね、嬉しいよ」「腰を痛めて、最初は痛くて息もできないほどだった。今日揉んでもらって楽になったよ、ありがとう」。南相馬市の北原団地は264世帯と規模が大きく、福島県浪江町出身の方が多く暮らしています。ここでの交流イベントは31回目、コロナ禍を経て1年半ぶりの開催でした。16人が集まり、楽しい時間を過ごしました。



南相馬市北原団地での交流活動。理学療法士らによるリハビリ支援の後、持ち寄りランチでおしゃべりを楽しみました

一年半ぶりに
会えて嬉しい

ワクワク子ども塾

2023年度は7月と12月に開催しました。2012年7月からのべ1,000人以上にご参加いただいたこのプログラムは、12月の開催をもって終了しました。

この事業があったからこそ、
娘が今まで明るく
成長してきたと思っています



季節に合わせた遊びや防災講座など、さまざまなイベントを盛り込んで開催しました



「この事業があったからこそ、娘が今まで明るく成長してきたと思っています。多くのスタッフの方々に感謝申し上げます」。お子さんを外で思い切り遊ばせてやりたいと2014年から10年間、継続して参加して下さった横山明美さんは、最後の「ワクワク子ども塾」の開催の後にメッセージを寄せてくださいました。

人と人とのつながりを守りたい大原 真一郎 (国内災害担当)

東日本大震災の被災地では、13年経った現在でも、生活の再建が難しい方々がいます。一度失われた生活基盤や地域社会を再構築することは容易ではありません。また、公共インフラの復旧に注力するあまり、被災住民の生活復興や地域住民の声をまづぐりに反映しない施策が見直されないまま進んでいることもあります。

AARは、人と人とのつながりを守り、新たに築くお手伝いをしながら、地域住民の声を行政に届ける支援を続けています。能登半島地震の被災地も同様で、今失われてしまうと、取り返しのつかない事態に直面する可能性があります。私たちは、東北で培った知見やネットワークを活かし、被災地支援に取り組んでいます。



日本：
東日本大震災被災者支援

被災者の交流促進、 子ども向け交流イベントの開催

被災者の交流促進：岩手県、宮城県、福島県の被災者を対象に、傾聴活動や昼食交流、手芸活動など、孤立防止や心身の改善、地域住民同士の関係再構築を図るイベントを開催し、**5,048人**が参加した。関東圏の避難者団体と協働し、お茶会や勉強会を開催し、広域避難者同士のつながり支援、福島県帰還者と県外避難者の交流を深める活動を行った。

インクルーシブな地域防災の普及：障がい福祉事業所の自主福祉避難所をモデルとし、一般避難所での生活が困難な障がい者の避難施設を拡充。自治会、福祉団体、行政との連携を強化し、地域防災への理解を促進しました。
ワクワク子ども塾の開催：福島県浜通り地域や西会津町に住む親子を主な対象とした保養・地域交流プログラムを**2回**開催し、**104人**が参加。



日本：
令和4年8月豪雨被災者支援

活動再開や生活再建に 向けた支援

新潟県村上市において、被災者の中でも発達障がいがあり意思疎通が困難な子どもおよびその家族が交流するための居場所づくり支援を実施した。被災家族同士の支え合いの場、情報交換ができる場を作り、被災者の生活再建およびコミュニティ再構築のための活動を進め、**1,615人**を支援した。



障がい者支援



受益者数
42,911人



事業規模(事業決算)
319,876,161円

障がいのある方々の経済的・精神的・社会的自立を支援する活動を通じて、「障がいがあってもなくても、ともに支え合うことのできる社会」の実現を目指しています。2023年度は5カ国で支援を実施しました。

AARがラオスで実施する技術研修でキノコ栽培を学ぶ参加者たち

Pick up

- 4カ国でインクルーシブ教育(IE)*を推進し、障がい児や教員など33,505人を支援
- カンボジア、ミャンマー、パキスタン、タジキスタンの23の学校で手すりやバリアフリートイレなどを設置し、障がい児(者)の学ぶ環境を整備
- ラオス、ミャンマー、タジキスタンでのべ653人に職業訓練や技術指導を行い、就労を支援

※インクルーシブ教育(IE:Inclusive Education):障がいの有無や人種、言語の違いなどに関わらず、すべての子どもたちに開かれた教室、学習施設、教育制度

ラオス〈インクルーシブな地域社会の推進支援〉

ルックさん(18歳・技術研修参加)

「学校にも行けず、ほとんど家の中で過ごしてきましたが、AARの活動に参加して、行動範囲が広がりました。人に会うのがとても楽しいです。キノコ栽培のおかげで、地域のたくさんの人に会うことができ、収入まで得られて幸せです」

AARが実施するキノコ栽培研修に参加した視覚障がいのあるルックさん(右)、AARビエンチャン事務所のカイソン(左)



見えなくても、
人に会うのが楽しい

誰もが過ごしやすい地域社会の実現のために 大室 和也(カンボジア事務所)

AARは、4カ国でインクルーシブ教育(IE)の推進に取り組んでいます。カンボジアでは2013年から活動を続けており、現在では全国に普及させるためのチェックブック「インクルーシブ教育行動計画2024-2028」を行政と協力して作成するまでになりました。また、AARは地域全体を巻き込んで、本人、学校、教師、地域の人たちと協力しながら活動を展開してきました。当初は「うまくいく気がしない」と考えていた地域行政の方々も、今では「(すべての子どもの教育を保障するには)欠かせない活動だ」と話してくれます。インクルーシブ教育の先に、誰もが過ごしやすい地域社会があることを信じ、活動を続けてまいります。



カンボジア〈社会参加支援〉

車いすのおかげで、
毎日学校に
通うことができます



ブタさん(12歳・車いす受給者)

以前は時々しか学校に行けませんでした。机つきの車いすを提供してもらい、今は毎日学校に通っています。ひとりで授業に参加できるようになりました。母親は「車いすのおかげで、付き添いは送迎だけでよくなりました。ブタは宿題も一生懸命やっています。今の勉強が将来の可能性を広げてくれると信じています」と喜んでいいます。

ミャンマー〈職業訓練校の運営と就労支援〉



故郷で障がいのある
人たちに
技術を教えたい

ルウェイさん(23歳・訓練生)

「AARの障がい者のための職業訓練校のコンピュータコースで学んでいます。卒業後は、習得した技術を活かせる職場でアシスタントとして働きたいです。海外でのリーダー育成の研修に参加するという目標もあります。その後は自分の故郷に戻って、自分と同じように、障がいのある人たちにパソコンの技術を教えたいです」

活動報告

Laos ラオス

障がいのある人々が社会活動に参加し、自立できるように

障がいインクルーシブな地域社会の推進支援：ラオス北部のウドムサイ県にあるバクベン郡とベン郡で、地域住民に対する啓発活動を実施。ナモー郡とラー郡では、障がい当事者などからなるインクルーシブネットワークの構築に取り組んだ。また両郡の計**100人**を対象に、キノコ栽培、ヤギ飼育、バイク修理の技術研修、生計活動に必要な資材の配付などを行い、計**282人**を支援した。



Cambodia カンボジア

障がい児の教育支援体制を強化。バリアフリートイレの建設や車いすなどの補助具も提供

インクルーシブ教育(IE)の普及：クサイ・カンダール郡の行政職員や教員などの関係者への研修やモニタリングを通じて、持続的な障がい児支援を提供する地域体制の強化や支援ネットワークの強化に取り組んだ。また、教育省とともに策定したIEチェックブックの普及にも取り組んだほか、郡内の高校**1校**にてバリアフリートイレの設置や生徒および地域住民への啓発活動を実施し、**234人**を支援した。



障がい者への社会参加支援：ブノンペン特別市で、車いす工房「AAR,WCD」が車いすを製造・配付するための費用を支援。**522人**に車いすや杖などの補装具を提供した。

Myanmar ミャンマー

障がい者の就労・教育支援を多方面から実施

職業訓練校の運営と就労支援：**81人**の訓練生に、洋裁/理容美容/コンピュータの職業訓練のほか、社会性を育む活動を行った。訓練生・卒業生への就労斡旋(**145人**)・生活相談(**578人**)、オンライン技術指導(**462人**)などを実施。

子どもの未来(あした)プログラム：障がい児**29人**に補助具や学習教材などを配付したほか、歯科検診を実施した。インクルーシブ教育(IE)支援：ヤンゴンやカレン州で、学校のバリアフリー工事や補助具・学習補助教材の提供、生徒への研修などを行ったほか、保護者や地域住民からなるサポートグループの設立や能力強化を行い、**16,496人**を支援。障がい者の自立・生計支援：他団体と協働で、障がい者**700人**に職業訓練や金融サービスなどの研修を実施。また、障がい者を含む生活困窮者**5,750人**に、食料配付や現金給付などを行った。



活動報告

Pakistan パキスタン

障がいのある子どもたちが
学校で学べるように

初等教育におけるインクルーシブ教育推進：北部ハリプール郡の小学校9校で、バリアフリー工事や教員への研修を行い、障がい児の受け入れ体制を整え、地域の障がい児の就学を働きかけた。教員や児童、保護者、地域住民に障がいの理解を促す授業やワークショップも実施。また、保護者を中心とする訪問相談チームを組織し、不就学児童の特定や就学・復学支援を行い、障がい児と家族、地域住民ら15,330人に支援を届けた。



Tajikistan タジキスタン

インクルーシブ教育 (IE) の拡大と
障がいのある女性たちへの
洋裁職業訓練

インクルーシブ教育 (IE) のための教職課程の構築：ヒッサール教員養成専門学校で教職課程を担当する教員4人を対象に障がい理解およびIEに関する研修を実施し、80人の学生が研修内容を踏まえた授業を受けた。また、指導実例集を作成し全教員に配付した。同大学建物にスロープやバリアフリースイッチを設置したほか、障がい当事者と保護者を対象に進学説明会を開催するなどして、1,445人を支援した。

障がい者と家族の自立支援：ヒッサール市で、障がいのある女性とその家族10人を対象に12カ月間の洋裁職業訓練を実施。起業のためのビジネススキル研修も行った。作品展示会を通じて約1,000人の地域住民の障がいに対する理解を促進した。



パキスタン〈インクルーシブ教育推進〉



バリアフリー工事に
感謝しています



自らも車いすを使用する
イバルクさん(上写真・奥
右)障がいのある子ども
たちのお手本です

イバルクさん(AARが支援した学校の校長先生)

「以前は、学校の正門から校舎までの道が舗装されておらず、教室に行くまでに階段もあったため、他の先生が校門から教室まで連れて行ってくれていました。また、校内のいたるところにある段差のため、教室から別の教室に移動することも非常に困難でした。AARのバリアフリー工事のおかげでそれらの困難が解消され、感謝しています。退職後は、自分も地域の障がいのある子どもたちのためにボランティアをしたいと考えています」

タジキスタン〈IE推進のための教職課程の構築〉



障がい者の教育について
考えたことも
ありませんでした

AARの研修後、教員養成
専門学校で授業をする
バフティヨールさん

バフティヨールさん
(AARの研修を受けた
教員養成専門学校の先生)

「研修を受けるまで、障がい者の教育について考えたこともありませんでした。しかし、実際に障がい児と触れ合う中で、彼らも学ぼうとしていること、学校に通いたいと思っていることを知りました。研修後は街を歩いても障がいのある人たちに目が向くようになりました。タジキスタンでは、障がい者は障がいが原因で学校に行けず、十分な教育を受けていないことから仕事に就くのも難しい状況にあります。将来教員になる学生たちにインクルーシブ教育についてしっかり教えることで、問題の改善に貢献したいです」

地雷・不発弾対策



受益者数
64,494人



事業規模(事業決算)
92,786,751円



ウガンダの地雷被害者協会(ULSA)のメンバーとAARの広本 充恵(左から2人目)

地雷や不発弾・簡易型の即席爆発装置(IED)などの危険から身を守るためのリスク回避教育、イギリスの地雷除去団体NGO「ヘイロー・トラスト」を通じた地雷除去、被害者支援を実施しました。



1998年、乗っていたバスの対戦車地雷の事故により右足を失ったマーガレットさん。ULSAの代表として世界中の国際会議などで地雷問題解決の重要性を訴えている

地雷被害者を見捨てる
社会を残したくない

ウガンダ〈被害者支援〉

マーガレット・アレチ・オレチさん
(67歳・ウガンダ地雷被害者協会(ULSA)代表)

「2009年からAARのサポートで地雷被害者への生計支援やリハビリテーション支援などを行っています。

私は20年ほど活動してきましたが、現状を変えるのは簡単ではありません。ウクライナでも新たな地雷が使われ、新たな被害者が日々生み出されています。時々、自分には何もできないと思う時もあります。でも、私と同じ体験をする人をなくしたい、地雷被害者を生み、地雷被害者を見捨てる社会を子どもたちに残したくない、との一心で活動をしています。支援くださる日本の皆さまに感謝しています」

アフガニスタン〈地雷・不発弾除去〉

モハマドさん(地雷原の住民)

「ロガル県で養鶏を営んでいます。自分の所有地で農業を始めたいと思っていましたが、開墾作業をしていた従業員3人が不発弾の事故に遭い、そのうち2人が亡くなりました。この3年間だけで牧畜をしていた村人が9人も犠牲になっており、怖くて近付くことができませんでした。こうして土地を安全にしてくれたおかげで、日々の恐怖から解放されました。他の住民たちも、ここに温室を作ったり、農業を始めたりする計画を立てています。日本の皆さんの支援に心から感謝しています」

日々の恐怖から
解放されました



©THE HALO TRUST

感染症対策／水・衛生



受益者数
11,673人



事業規模(事業決算)
26,035,375円



AARが実施する衛生啓発活動に参加する子どもたち(パキスタン)

不衛生な環境や医療施設の不足などによって感染症で命を落とす状況を改善するため、衛生施設の整備や正しい知識と適切な治療の提供を行っています。

パキスタン〈洪水被災地での衛生環境の改善〉

2022年夏の大洪水による浸水で、学校のトイレが壊れ、屋外で用を足すしかなかった子どもたちは、AARが設置した新しいトイレの前に、「安心してトイレを使えるようになって本当にうれしい。もう学校でトイレを我慢しなくていいんだ!」と大喜び。子どもたちが衛生的な習慣を継続できるように、子どもたち自身による「衛生クラブ」の活動を支援しています。



「衛生クラブ」で手洗いについて学ぶ子どもたち

活動報告

地雷対策

Afghanistan アフガニスタン

爆発物の被害に遭うリスクを回避できるように

包括的地雷対策:ザブル県の対象村および、カブル県にあるパキスタンなどからの帰還民が手続きを行う施設で、**11,913人**を対象に爆発物リスク回避教育を行った。また、ロガール県ではイギリスの地雷除去NGOと協働して地雷、不発弾を除去し、**約75万5,000平方メートル**の地雷原を安全な土地にした。



Uganda ウガンダ

地雷・不発弾被害者のリーダーの能力強化

地雷被害者生計支援:地雷・不発弾被害者のリーダー**22人**を対象に、彼らが活動する地域で被害者の支援計画を策定・実践できるよう能力強化研修を実施。また、地雷・不発弾被害者の中でもトイレの使用が困難だった**5人**がバリアフリートイレを利用できるよう整備した。



Ukraine ウクライナ

国内での地雷除去を開始。人々の安全を守る

包括的地雷対策:イギリスの地雷除去NGOと協働し、キーウ州の紛争地域の村々で調査と除去を実施。**88の村落52,365人**を支援した。



感染症対策

Pakistan パキスタン

小学校でのトイレや手洗い場の整備、洪水被災地での衛生環境改善

洪水被災者支援:2022年の大洪水で甚大な被害を受けたシンド州の公立小学校**6校**で、児童が安全な水にアクセスできるよう井戸やトイレなどを修繕・新設した。それらを学校や地域住民が維持管理できるよう、ワークショップを開催。児童に対しても、衛生に関する啓発ワークショップを実施し、**11,673人**を支援した。



スーダンで2013年から取り組んできた顧みられない熱帯病(マイセトーマ)対策は、2023年4月に武力衝突が発生し、安全に事業を実施することができないため、活動を見合わせました。

Advocacy / Awareness Raising

国内活動

提言／調査・研究／

国際理解教育／広報・渉外

Pick up

- 東京事務局および佐賀事務所において、小学校から大学院までの学校で講演・ワークショップを64回実施
- 活動報告会やシンポジウム、チャリティコンサートなどの主催イベントを21回実施
- 新聞やテレビ、ラジオ、ネットニュースなど83の記事・番組でAARの活動が紹介されました
- 239の新規の企業・団体にご支援をいただきました

AARが取り組む課題への理解を促し、多くの皆さまに活動にご参加いただくため、国内では調査・研究やアドボカシー（提言・啓発）、広報・渉外活動、収益事業などの活動に取り組んでいます。

提言／調査・研究

支援の専門性や事業の質を高めることを目的に、「難民支援」「障がい者支援」「地雷対策」「キラーロボット反対キャンペーン」「感染症対策」の分野で、調査や研究を行っています。各分野で支援に携わる関係団体との定期的な会合に参加して情報収集やネットワークの構築に取り組んでいます。2023年11月にはタイで開催された世界盲人連合アジア太平洋地域協議会中間総会に参加し、AARのファンドレイジングの取り組みを発表しました。またスイスのジュネーブで開催された第26国際地雷対策プログラム責任者会合（6月）、第2回グローバル難民フォーラム（12月）に参加しました。



2023年11月にタイのプーケットで開催された世界盲人連合アジア太平洋地域協議会中間総会で発言するAARの伊藤美洋（右から2人目）

国際理解教育

「難民支援」「地雷・不発弾対策」「障がい者支援」などをテーマに、講演やワークショップを計64回実施。小学生から大学院生まで幅広い年齢層を対象に、国際情勢やAARの活動、国際協力におけるNGOの役割などについて理解を深めてもらいました。また、新たな試みとして、夏休みに高校生を対象とした講座を開催。「ネットだけではよく分からなかった現地の状況がよく分かった」「難民でもある職員の方の話が聞けてとても貴重な体験になった」「同世代の人の意見がすごく刺激になった」などの声が寄せられました。



8月23日に開催した夏休みの高校生向け講座「難民支援のリアル～探究型レポート作成のヒント～」でのグループワーク

広報・渉外・収益

緊急支援時の発信強化、SNS・動画の活用、WEB広告の本格的運用などの取り組みを通じて、ご寄付やマンスリーサポーターの増加を実現しました。また、239の企業・団体が新たにAARをご支援くださり、さまざまな協働プロジェクトを実施しました。収益事業では、HARIO株式会社にご協力いただいた新製品を発売したほか、国内外で活躍するカルテットにご出演いただいた『Quartet Festival』を2023年4月と2024年5月に開催しました。



世界難民の日常写真展「今、地球のどこかで」(会場:モンベル御徒町店)



HARIO株式会社にご協力いただいたフィルターインボトル



チャリティコンサートに出演くださったR.U. ストリング・クワルテットの皆さま

ご支援をお寄せくださった皆さまからのメッセージ

ますます混迷を極める世界において、AARが人々を照らす光となってくれることを願っています

(夏募金へのご寄付)

必要な時・場所での貴重な支援活動に心から敬意を表します

(年末募金へのご寄付)

現地の子どもたちやスタッフの皆さんと一緒に夢が追えるのが嬉しいです。このような企画をさせていただいて、ありがとうございます

(まるごと募金プロジェクトにご寄付)

祈禱日本好朋友們大家都平安, 小小心意, 願平安度過, 早日恢復正常生活(日本の友人たちの無事を祈りつつ、ささやかな感謝の気持ちを込めて、平和と一日も早い日常への復帰を願って)

(能登半島地震緊急支援に台湾からのご寄付)

大変小さな支援ですが誰かの未来が前向きに進むきっかけや追い風になることを願っています

(書き損じハガキキャンペーン)



想いをしっかりと現場に届けてまいります

事務局次長／広報コミュニケーション部長 吉澤 有紀

2023年度はコロナ禍で自粛していたイベントを徐々に再開することができました。オンラインイベントでは、より多くの方にご参加いただける新たな喜びがありましたが、会場で直接お話することで率直なご意見やAARへの期待などをお伺いすることができ、やはり大切な場所だと改めてかみしめました。また、ご寄付に添えてくださる皆さまからのメッセージにもいつも力をいただいています。その想いをしっかりと支援の現場に届けて参りたいと思います。

実施体制

受益者や地域住民などへの性的搾取・虐待およびハラスメントからの保護（PSEAH※1）、子どものセーフガーディング（CS※2）に関する取り組みとして、スタッフの「行動基準」を整備し、多言語による相談・苦情受付窓口を設置しました。国内外の支援活動や事務所運営の質を向上させるため、ビジョン・ミッションの振り返りと内部・外部環境分析を実施。職員間で「AARが目指す姿」を議論し、来年度からの3カ年計画（戦略ツリー）を策定、「事業」「財源」「組織」の方針整理に着手しました。また、海外事業における有能な人材確保や現地化を視野に、グローバル・オフィサー制度を導入。東京事務所では、執務スペースおよびトイレのバリアフリー化を実施しました。

※1 PSEAH:Protection from Sexual Exploitation, Abuse and Harassment ※2 CS:Child Safeguarding

職員・ボランティア

2024年3月31日

日本国内61人（東京事務局57人／佐賀事務所3人／東京事務局付海外駐在員1人）
海外事務所職員172人（駐在員19人、現地職員153人）
ボランティア活動人数1,433人（東京事務所のべ1,394人／東日本大震災・能登半島地震 被災者支援事業のべ39人）

役員

2024年6月29日現在（五十音順）

会長／理事	長 有紀枝（立教大学教授）	
副会長／理事	加藤 タキ（株式会社タキ・オフィス代表取締役／コーディネーター）	
理事長	堀江 良彰（社会福祉法人さぽうと21事務局長／緊急人道支援学会副会長）	
副理事長	伊勢崎 賢治（東京外国語大学名誉教授）	
専務理事	古川 千晶（AAR事務局長）	
常任理事	忍足 謙朗（元国際連合世界食糧計画アジア地域局局长）	
	高橋 敬子（社会福祉法人さぽうと21理事長）	
	水鳥 真美（前国連事務総長特別代表（防災担当）兼 国連防災機関長）	
	森 スワン（元難民救援奨学生※ベトナム出身）	
理事	岡山 典靖（AAR地域統括・緊急支援マネージャー）	田畑 美智子（前世界盲人連合アジア太平洋地域協議会会長）
	加藤 勉（株式会社イングラム代表取締役）	名取 郁子（京都先端科学大学講師／元 AAR支援事業部長）
	河野 真（国際医療福祉大学教授）	沼田 美穂（弁護士／沼田法律事務所所長）
	郷農 彬子（株式会社バイリンガルグループ取締役社長）	萩原 ソパナ（元難民救援奨学生※カンボジア出身）
	杉田 洋一（AAR会計担当）	三好 秀和（弁理士／三好内外国特許事務所会長）
	谷川 真理（元マソンランナー／株式会社Mari Company代表取締役）	鷲田 マリ（西日本担当理事）
※AARが1982年に開始した在日難民学生に対する奨学金制度。以降、1992年の姉妹団体社会福祉法人さぽうと21設立まで、のべ約920人を1人平均6年間支援しました。		
監事	菅沼 真理子（元AARザンビア駐在代表）	
	山口 明彦（公認会計士）	

以上 役員（理事21人 監事2人）

さぽうと21



社会福祉法人さぽうと21はAARの姉妹団体です。AARが国内で行ってきた事業を引き継ぎ、1992年に設立されました。日本に定住するインドシナ難民、条約難民、中国帰国者、日系定住者及びその子弟などを対象に、相談事業、自立支援事業（就学支援・学習支援）などの活動を行っています。



ボランティアによる学習支援。日本語をはじめ、児童・学生への学習支援、受験勉強、パソコン指導などを行っています

ご支援いただいた企業・団体・個人の皆さま

2023年度に30万円以上のご協力（寄付金、助成金）をくださった皆さま、法人サポーターの皆さまを掲載しております。（敬称略、五十音順）

一般社団法人
SWR珠瑛会

NSR Nihon System
Research

MS&ADインシュアランスグループ
MS&AD
ゆにぞん Smile Club

FOUNDATION
AUDEMARS PIGUET
FOR COMMON GOOD



きょうざれん

KOA

KOA株式会社

株式会社
エヌエスアール

MS&ADインシュアランスグループ
ホールディングス株式会社

Audemars Piguet Foundation
for Common Good



株式会社シナジーテクノ



真如苑



公益財団法人
世界宗教者平和会議日本委員会



全国友の会



株式会社ダイバーシティ



株式会社高野



中外製薬株式会社



TOTO株式会社



一般社団法人徳島新聞社



一般社団法人日本香港人協会



日本郵船株式会社



パナソニックグループ
労働組合連合会



パルシステム
生活協同組合連合会



株式会社フェリシモ



宮坂機械株式会社



株式会社
ミリオンインターナショナル

ユースキン製薬株式会社

ユースキン製薬株式会社



リタウィルコンサルティング
株式会社

一般財団法人アースエイドソサエティ／一般社団法人あおい福祉 AI 研究所／アクセンチュア株式会社／朝日生命保険相互会社／新井土木株式会社／株式会社アントレックス／イーグルスグループ／公益財団法人茨城県国際交流協会／岩見沢友の会／公益財団法人ウェスレー財団／エーザイ株式会社／特定非営利活動法人SDGsプロミス・ジャパン／NTT DATA Business Solutions AG／NTT労働組合 コミュニケーションズ特別支部／大崎八幡宮／株式会社オートバックスセブン／花王ハートポケット倶楽部／公益財団法人 風に立つライオン基金／かみひとねっとわーく京都事務局／こどものお医者さんおがわクリニック／株式会社ザファーム／三和パッキング工業株式会社／一般社団法人シェア基金／株式会社ジェネシア・ベンチャーズ／枝光会附属幼稚園／有限会社シサム工房／上海ボランティアグループ互人多／株式会社出版文化社／情報産業労働組合連合会／積水ハウス株式会社と積水ハウスマッチングプログラムの会／全国労働金庫労働組合連合会／宗教法人智恩寺／合同会社DIABLE／株式会社TK／株式会社dr365／一般財団法人デロイト トーマツ ウェルビーイング財団／東京海上ホールディングス株式会社／株式会社 tone¬es／日本労働組合総連合会／公益財団法人庭野平和財団／公益財団法人野村生涯教育センター／パチンコ・パチスロ産業21世紀会／生活協同組合パルシステム東京／Franklin Templeton／フランスベッド株式会社／公益財団法人フランスベッド・ホームケア財団／ブルデンシャル・システムズ・ジャパン株式会社／株式会社フレクシェ／公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団／公益財団法人毎日新聞西部社会事業団／公益財団法人毎日新聞東京社会事業団／前原製粉株式会社／宮崎県遊技業協同組合／MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社／株式会社モリノ／UBSグループ／株式会社リカレント／リコー社会貢献クラブ・FreeWill／株式会社リベルテ／有限会社隆太窯／霊友会／株式会社六花亭／l'oro株式会社

個人支援者の皆さま（掲載のご承諾を頂戴した方のみのご紹介とさせていただきます。）

阿部 直子／飯田 孝子／石脇 秀夫／稲垣 えみ子／岩田宇宙開発／大塚 教哲／大山 綱明／加藤 昌子／金澤 保之／蒲生 正若／國分典子／小島 豊／後藤 茂子／佐藤 多嘉子／島田 洋介／清水 康子／関口 雅人／坪井 一穂／外川 剛／永井 弓子／永嶋 裕美子／野村 竜一／橋口 三保子／林 一江／三澤 順子／三好 秀和／むとう まり／村井 教夫／村松 廣美／もうり たろう／桃井 美鈴／守口 恵子／森田 眞千子／渡辺 順子／渡会 美千代

そのほか、主に公的助成金として以下の法人・組織よりご支援いただきました

外務省日本NGO連携無償資金協力／特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム／佐賀県／国立研究開発法人国立国際医療研究センター／独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構／職業安定局(厚生労働省)／職業安定所

ご支援いただいた皆さまからのメッセージ



「支援は子どもたちの心に
希望を届けています」

サヘル・ローズさん
俳優／タレント

ウガンダの難民居住地の学校に文房具を届けました。現地は想像以上に貧しく、靴を履かずに学校に来る子どももたくさんいました。過酷な環境の中でも学びたいという思いで輝く子どもたちの目を見ると、それを支えるのは大人の役目だと痛感します。ノートや鉛筆を嬉しそうに抱きしめる子どもたち。日本からの「あなたを忘れてはいない」というメッセージは、彼らの心に大きな希望を届けています。

2024年2月にAARの活動地、ウガンダのチャングワリ難民居住地を訪問。帰国後、AARのイベントやSNS、執筆などを通じて、難民問題を伝える活動にご協力いただいています。



「当事者として関与していく
意識を」

向山 浩正さん
KOA 株式会社 取締役 上席執行役員

海外市場が売上の7割近くを占める当社として、世界の平和やビジネス環境を脅かす行為は看過できません。日本もかつて悲惨な戦争を経験しました。今起きていることは決して他人事ではなく、当事者として関与していく意識を社員にも地域の方々にも持っていただきたいと社内にプロジェクトチームを設けました。AARは、現地で活動し信頼できる団体だと考え支援を決めました。

ご寄付のほか、地域のスポーツチームや地元の高校との協働によるチャリティグッズの企画販売、AARとの協働による講演会や写真展などを開催し、ウクライナ支援にご協力いただいています。



「“寄付は必ず
現地で役立てる”に共感」

新田 良文さん
宗教法人智恩寺 事務長

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻後、お寺として社会貢献しなければと考えていたとき、AAR理事長がウクライナ支援を地元のラジオで訴えたとの新聞記事を目にしました。「寄付は必ず現地で役立てる」という言葉に共感し、境内に募金箱を設置。予想を超える金額が参拝者から寄せられています。ぜひ、皆様のお気持ちを現地に届けていただきたい。

ウクライナ危機後、智恩寺の中心であり、多くの参拝者が訪れる文殊堂に「難民を助ける会を通じて現地で役立てます」と明記した立札を掲げ、募金箱を設置くださっています。



「遠い国の人々のことを
身近に感じることができました」

桃井 美鈴さん
長野県在住

日頃ミャンマーについてのニュースはあまり耳にすることもなく、思いを馳せる機会もなかなかありませんでしたが、駐在員からの報告を通じて、遠い国の人々のことを知り合いのように身近に感じることができました。障がいのある方が学んだり、将来の可能性を広げたりすることを、日本から後押しできるのはすごいこと。現地の方々が喜んでくださることを何より嬉しく思います。

『まるごと募金プロジェクト2023』を通じて、AARがミャンマーで運営する障がい者のための職業訓練校の運営・修繕をご支援くださいました。

会計報告

資金収支計算書 2023年4月1日から2024年3月31日まで

収入の部

科 目	金額(円)	構成比(%)
一般勘定 会費		
正会員	805,000	
協力会員	2,300,000	
計	3,105,000	0.17%
寄付		
寄付金	606,371,978	
計	606,371,978	34.10%
補助金等(注1)		
国内資金		
民間資金		
(特非) ジャパン・プラットフォーム(注2)	27,234,873	
その他民間資金12件	19,794,664	
民間資金 小計	47,029,537	2.64%
公的資金		
外務省日本NGO連携無償資金協力	367,415,392	
(特非) ジャパン・プラットフォーム(注2)	637,888,675	
佐賀県	11,000,000	
(国研) 国立国際医療研究センター	3,923,873	
(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構	537,933	
職業安定局(厚生労働省)	400,000	
職業安定所	25,065	
公的資金 小計	1,021,190,938	57.43%
国内資金 計	1,068,220,475	60.07%
海外資金		
国際連合難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	3,328,007	
海外民間助成団体 2件	6,766,288	
海外資金 小計	10,094,295	0.57%
計	1,078,314,770	60.64%
その他収入		
受取利息	368,309	
為替評価益(注3)	49,177,036	
雑収入	1,704,679	
その他の収入	3,775,201	
計	55,025,225	3.09%
一般勘定収入合計	1,742,816,973	98.00%
収益勘定(注4)		
チャリティグッズ・イベント等売上	31,277,825	1.76%
受託収入・著作権等	4,184,645	0.24%
収益勘定収入合計	35,462,470	2.00%
当期収入合計 (A)	1,778,279,443	100.00%
前期繰越収支差額	875,150,822	
収入合計額	2,653,430,265	

支出の部

科 目	金額(円)	構成比(%)
一般勘定 支援事業		
海外プロジェクト	1,400,151,384	79.83%
国内プロジェクト		
台風2号緊急支援	232,890	0.01%
令和5年7月大雨緊急支援	18,230,788	1.04%
令和6年能登半島地震緊急支援	33,961,733	1.94%
東日本大震災被災者支援	26,528,036	1.51%
令和4年8月豪雨被災者支援	531,879	0.03%
在日難民・避難民支援	8,118,368	0.46%
計	1,487,755,078	84.82%
提言・啓発		
調査・研究(キラーロボット含む)	1,619,818	0.09%
難民グローバルコンパクトの実践	1,289,115	0.07%
障がい者支援	4,411,859	0.25%
地雷廃絶キャンペーン	1,510,079	0.09%
感染症	350,814	0.02%
国際理解教育(佐賀事務所含む)	25,626,658	1.46%
計	34,808,343	1.98%
広報・ファンドレイジング		
広報・支援者対応	117,975,470	6.73%
渉外	5,233,717	0.30%
計	123,209,187	7.03%
固定資産取得支出		
備品購入(海外、国内)	10,945,741	0.62%
計	10,945,741	0.62%
管理費		
人件費	34,508,380	1.97%
その他管理費	26,277,932	1.50%
その他支出		
前期修正損	3,584,087	0.20%
計	64,370,399	3.67%
一般勘定支出合計	1,721,088,748	98.12%
チャリティグッズ・イベント等仕入	19,075,207	1.09%
販売管理費等	13,800,483	0.79%
収益勘定支出合計	32,875,690	1.88%
当期支出合計 (B)	1,753,964,438	100.00%
次期繰越収支差額	899,465,827	
支出合計	2,653,430,265	
当期収支差額 (A-B)=(C)	24,315,005	
前期繰越収支差額 (D)	875,150,822	
時期繰越収支差額 (C+D)=(E)	899,465,827	(注5)

※注記 本資金収支計算書は、特定非営利活動法人難民を助ける会が令和5年4月1日から令和6年3月31日までの期間において行ったすべての活動の資金収支の結果について資金提供者に報告・開示するために作成するものであり、特定非営利活動法人難民を助ける会の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を表示することを目的とした財務諸表に相当するものではない。資金の範囲及び認識は、以下の通りである。(1) 資金の範囲として、流動資産は現預金・売掛金・立替金・未収金・前払金とし、流動負債は前受金・未払金・預り金とする。(2) 資金項目と資金項目以外の項目との間の取引を収支または支出として計上し、資金項目相互間の取引については、これを単なる資金項目間の取引として認識し、収入又は支出として計上しない。

注1: 申請書を提出して事業費の助成を受けたもの。その他の団体からのご寄付は、個人からのご寄付と合わせて「寄付金」に計上

注2: ジャパン・プラットフォームからの補助金は、民間企業資金を財源とするものは民間資金、政府供与資金(外務省)を財源とするものは公的資金として計上

注3: 取引によるものではなく外貨を円換算したことによる

注4: 詳細は27ページの「収益勘定収支明細」を参照

注5: うち指定寄付分592,889,195円

附属明細書 収益勘定収支明細

収入の部

科 目	金額 (円)	構成比 (%)
チャリティグッズ・イベント等売上		
コンサート・イベント	8,394,800	
チャリティ・グッズ	22,883,025	
受託収入 (注1)	4,070,550	
計	35,348,375	99.68%
その他		
著作権等収入	102,822	
雑収入	11,240	
受取利息	33	
計	114,095	0.32%
収入合計 (F)	35,462,470	100.00%

注1: 外務省 NGO 相談費、(特非) SDGs・プロミス・ジャパンからの業務委託費

支出の部

科 目	金額 (円)	構成比 (%)
チャリティグッズ・イベント等仕入・費用		
コンサート・イベント	4,364,493	
チャリティ・グッズ	12,737,348	
受託支出	2,287,383	
他勘定振替	-314,017	
計	19,075,207	58.02%
販売管理費		
人件費	9,180,395	
販売費及び一般管理費等	1,922,688	
消費税	953,900	
計	12,056,983	36.68%
法人税等支払額	1,743,500	5.30%
支出合計 (G)	32,875,690	100.00%
当期経常収支差額 (F-G) = (H)	2,586,780	

貸借対照表 2024年3月31日現在

資産の部

科 目	金額 (円)
流動資産	
現金預金	2,049,578,108
売掛金	2,354,039
前渡金	131,199
立替金	1,672
未収金	17,273,873
前払金	2,730,426
貯蔵品	5,115,922
棚卸資産	2,723,896
流動資産合計	2,079,909,135
有形固定資産 (注1)	
車両	514,197
備品	7,000,907
建物	25,339,104
建物附属設備	2,848,436
無形固定資産	
ソフトウェア	2,675,145
投資その他の資産	
敷金	8,176,760
投資有価証券	12,000
固定資産合計	46,566,549
資産合計	2,126,475,684

注1: 有形固定資産: コンピューター23台 (含 サーバー)・車両2台・その他備品11台以外は、海外事務所所有資産

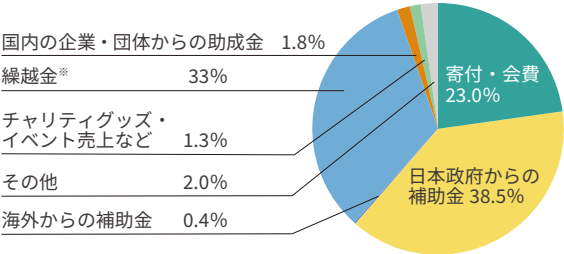
注2: 当期中に受け入れた補助金等の未使用額

負債および正味財産の部

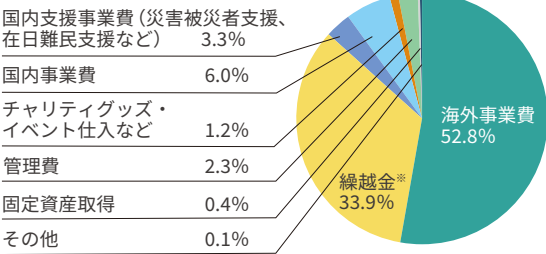
科 目	金額 (円)
負債	
流動負債	
前受金 (注2)	1,048,054,696
未払金	118,646,786
預り金	5,902,008
未払法人税等	1,252,000
流動負債合計	1,173,855,490
固定負債	
退職給付引当金	7,020,000
固定負債合計	7,020,000
負債合計	1,180,875,490
正味財産	
前期繰越	912,372,333
正味財産増減額	33,227,861
正味財産合計	945,600,194
負債および正味財産合計	2,126,475,684

2023年度 収入・支出内訳

➡ 収入 2,653,430,265 円



← 支出 2,653,430,265 円



※活用期間が年度をまたぐ寄付や一部の助成金・補助金で、既に使途の決まっている資金が含まれています。

AAR は、当会監事および
アーク有限責任監査法人による
監査を受けています。

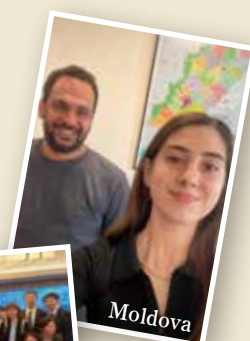


より詳しい会計報告は、
ホームページ (aarjapan.gr.jp) の
財務報告書をご覧ください。



AARの活動をお支えいただき、誠にありがとうございます。

皆さまよりお預かりしたご寄付を、確かな支援に変えて、世界の現場に届けています。
どうぞ引き続きのご支援を、AAR役職員・ボランティア一同心よりお願い申し上げます。



ご支援の方法

マンスリーサポーターとして(継続的なご寄付)

毎月定額を継続的にご寄付いただくことで、AARとともに困難に直面する人々を「支え続ける」ことができるしくみです。お申し込みはホームページから、またはお申し込み用紙をご請求ください。

寄付をする

- クレジットカード AARのホームページより簡単に手続きいただけます。
- コンビニ払い
- 銀行振込

三菱UFJ銀行	目黒支店(普)	4520323	難民を助ける会
みずほ銀行	目黒支店(普)	1110211	難民を助ける会
三井住友銀行	目黒支店(普)	1215794	難民を助ける会

銀行からのお振り込みは、ホームページの寄付画面からお申し込みください。直接銀行にお振込みいただく場合は、こちらでお振り込み人名を特定できないため、お手数ですがお電話(03-5423-4511)でご連絡ください。

- 郵便振込

手数料無料の口座(窓口でのみ利用可)
口座番号:00110-8-697924(加入者名:難民を助ける会)
※自然災害以外の支援活動へのご寄付にご利用いただけます。
ATMをご利用の場合や自然災害へのご寄付の場合
口座番号:00100-9-600(加入者名:難民を助ける会)



寄付額の最大約5割が戻ってきます。

AARは東京都により「認定NPO法人」に認定されており、ご支援くださる皆さまは、所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置を受けることができます。

遺贈・相続財産から寄付をする

ご自身の財産や相続された財産の一部をご寄付いただくことができます。お香典返しにAARのチャリティグッズをご利用いただくことも可能です。

ふるさと納税を通じて寄付をする

佐賀県へのふるさと納税を通じて、AARをご支援いただけます。寄付をしてくださった方には、佐賀県の特産品や AARオリジナル商品をお送りします。お礼の品なしのご寄付も可能です。

法人サポーターになる(継続的なご寄付)

1口10万円以上のご寄付を通じて、AARの活動を長期的に支えてくださる企業・団体さまのための制度です。

チャリティグッズを購入する

贈答品やプチギフトにもぴったりの商品を多数ご用意しております。



認定NPO法人 難民を助ける会 www.aarjapan.gr.jp

〒141-0021

東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル7F
TEL.03-5423-4511 FAX.03-5423-4450

〈佐賀事務所〉

〒840-0826 佐賀県佐賀市白山1-4-28 佐賀白山ビル303号室
TEL.0952-37-5380 FAX.0952-37-5381



@aarjapan



@aarjapan



@aar_japan/



@134gqcky